

編集後記

●窪田君から電話をもらった時は彼の「岩村君が全部やってくれるき心配せんでもえいぜよ」との言葉にまんまと引っかけついつい「ほんなら引受けようか」と引受けてみたはいけれど、何が岩村君が全部やってくれるぜよ！彼は彼でものすごく忙しく、とても全部やってくれるなどという状態に非ず。

ボーゼン自失の状態から立ち直り、先輩、後輩の編集委員の皆さんのご協力を得てとにかく小松先輩がご苦労されてここまで積み上げてこられた「筆山」の伝統を今後一層発展させて行こうと固く心に誓った次第であります。新しく発足した編集部は男女を問わずいづれ劣らぬ個性派ぞろい、教養溢れる(?)紙面作り、海外で活躍している同窓生の皆さんを含め、多くの同窓生の参加出来る紙面作りを心掛けたいと思っておりますので皆様方のご協力を何卒宜しくお願いいたします。(戸)

●老いの二文字が眼前に見え隠れし始めた私にとって、若い方達との編集作業は回春の妙薬になるのではと淡い期待

筆山

第9号 / 1989. 12

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付 ☎03-816-7011 / FAX 03-816-7044 編集人 / 戸田博之(38回)

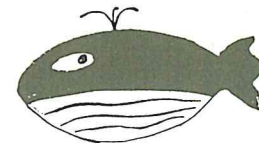
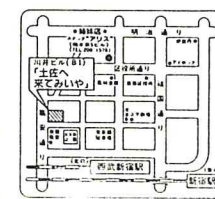


写真提供＝朝日新聞社

十四年目の甲子園
この前は甲子園の宿舎に曾我部校長を訪ね、一緒に球場へ乗り込み、三回戦へと勝ち進んだ試合の応援席にいた。あるラジオ放送がやって来て試合の合間に「土佐高の野球についてしゃべって呉れ」といわれて、技術面は判らないので「質実剛健は武依別の昔からの気風だ」などと言っているうちに試合は敗色が濃くなった。校長が「これはいかんが」といった。試合は敗れて校歌はなかった。

今夏、十四年目の出場と聞いた時の喜びは人後に落ちない。また暑い中を出かけて行った。人波に揉まれて妙にひとりになって応援席にいた。試合はうまく進まない。隣の青年が応援で校歌を歌っている。「君も同窓か」ときこうと思っただけで止めた。戦い敗れて、初めて正対して「残念でした」と挨拶した時、お互い名乗り合わなかったが気持ちよく通じた。その晩梅田で深酒した。

六回 近藤 久寿治
健武依別(たけよりわけ)
Ⅱ 土佐の古称



くじら刺 1000円
くじらたたき 2000円
かつおたたき 780円

新宿区歌舞伎町2-41-12 川井ビル 土佐へ来てみい
TEL 03(209)0145

SEIKO 山下成子(32回生)

大阪におこしの節は
ぜひお立ち寄り下さい。
お待ちしております。

大阪市北区曽根崎新地1-2-12 タチバナビル
TEL (06)341-8220

＜土佐高出身のみなさまへ！＞

ますますお元気で 各方面に御活躍の由
とても嬉しく存じて居ります
銀座の シックで おおらかなお店ですので
お気軽に御利用下さいませ
若くてキレイな子 がそろっています ……

くらぶ はつとり

銀座8丁目角ゴルフビルB1 571-5333・572-2586



〈編集会議〉左から大和田・内川・佐々木
戸田・岩谷・藤宗・鶴和 各氏

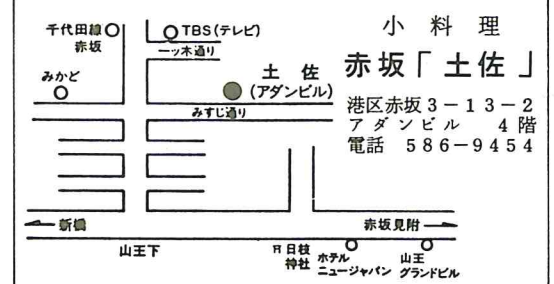
を抱いての参加です。(内)

いごっそう

東京都港区六本木4-12-7
八森ビル4F
☎03(405)0152・0159

いごっそう本店

高知市追手筋1-10-19
0888-22-1213

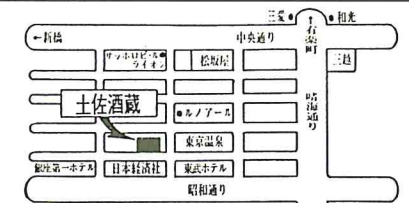


都会の中の小さな土佐



〒104 東京都中央区銀座7-6-8(西五番街) ☎572-9640

- 赤坂店(赤坂みすじ通り) ☎585-9640
- 新宿店(新宿住友三角ビル) ☎344-6585
- 渋谷店(シオノギ渋谷ビル) ☎407-9640
- 酔録亭(新宿野村ビル) ☎348-2727
- 加寿翁(新宿住友三角ビル) ☎345-0881



季節のふるさとの味

銀座7-12-4 サンリード地階
☎545-3855 銀座第一ホテル通り

土佐酒蔵

全力観戦記

●三十八回 片山 直久

母校野球部の久し振りの甲子園出場。決まった瞬間夏休みを利用して絶対初戦から観戦しようと決意。

実は高知県予選の優勝決定戦当日は大変でした。台風で試合が延びてイライラしていましたが、高知まで飛んで行く時間はちよつとありません。幸いにも部下の友人が朝日新聞社の高知支局に勤務中と聞いたので、職場から電話でテレビのゲームを刻々実況中継してもらった次第です。職場では私が土佐高野球部のOBであることは周知の事実で、甲子園が決まった時にはあらこちらからおめでとの祝福の嵐。非常にハッピーで土佐高野球部OBであることの誇りを率直に感じました(後日これをネタに奉加帳回しを実行)。

甲子園の第一試合、東亜学園とのゲームは過去の経験からして絶対勝てると思っていました。在大阪の大学野球部時代の親友を先導役に甲子園に乗り込み、さらに先輩が審

判をしているので強引に頼み込んでネット裏に席も確保できました。野球観戦はネット裏という習慣が身についており、スタンド応援はどうも落ち着かない。むろん汗をかきながら応援席で声をあげるのもやぶさかではありませんが、ネット裏でまず驚いたのは、土佐高の久し振りの出場を手放しで喜んでくれる声があちらこちらから自然に聞こえます。この日のグラウンドは土佐高のユニフォームを中心に、熱気がスタンドの至る所を取り巻いている異常な状況でした。ネット裏でY先生やH野球部先輩の皆様に何十年振りであうことが出来たのもこの上ない幸運でした。審判団の方々は往年の六大学の名選手で、彼らに会えたのも土佐高甲子園出場のおかげです。おもしろかったのは、審判の方々が皆「土佐高のゲームには審判をしたくない」と異口同音に話していたことです。その理由は土佐高をやや判官びいきで応援するファンの多いここ甲子園でミスジャッジで

もすれば大変なことなることを心配しているのです。審判でありながらゲームを観戦して、自分達も心の奥で土佐高を応援する、これが本音のようでした。今更ながら高校野球の原点は土佐高野球部にありという言葉及びシーンを耳聞して、心踊る思いをした訳です。それと同時に、全国の高校野球ファンが何故甲子園に熱中するのか、やつと肌で分かりました。このスタンド・ネット裏に座ると自分が十六・十七才の選手になった気持ちになり、若さを取り戻した精神状態になるのですね。気は心、皆様歳とると若かりし頃は云々をいいますが、この甲子園では実にあの汗臭い、楽しかった青春時代に帰れるのです。タイムトンネルを潜ったように。

試合の方は全力疾走で頑張りましたが、打棒が今一つ振るわず惜敗。やや全力疾走で疲れた感じを受けたのも皮肉です。しかし爽やかでした。久し振りの全力疾走、甲子園ファンは惜しみない拍手を送り、又来年の出場を心から期待する声援が多く、感無量の中にズッポリ浸れました。一方野球も勝負。やはり勝

つことが大切です。汗や土にまみれ学業も忘れずに甲子園を目指す。そして母校応援歌にもあるごとく「勝利への道まじぐらに」突き進んで欲しいものです。

土佐高野球部。我が人生の原点であり、社会に入ってからドンドン歳をとるにつれ、支えになるのはこの土佐高野球部であります。ミスター・ジャイアンツ長島の言葉を借りれば、正に「土佐高野球部は永遠」です。どんなに歳をとろうが野球を愛し、出来れば自分でも身体が許す限り続けたい。そしてどこに居ても土佐高及び野球部を見守り、これを礎に我々も幾多の困難に負けず働き続けたいものです。土佐高高校生諸君、頑張っ



のぼり持参で仕事もそっの浅井、岩村、近藤、宮川の各氏

「下下さい。君達が次の時代を担っているのですよ。」

●九回 中尾 成彦

十四年ぶりの出場という。一生の思い出に、はるばる東京から応援に行った。東京からは近藤先輩、浅井幹事長等見えておられた。孫に案内されてみた甲子園は昔と変わらず、若い人達に溢れていた。応援団の若い生徒たちに交じってリーダーの指揮で拍手したり、大声を出したり、この日一日は若人にもどって立ったり、座ったり、何回しただらうか。少し疲れたが、評判通りきびきびしたプレーで善戦した母校の選手たちに心より拍手を送りたい。応援団の皆さんもご苦労様でした。

募 集

●二十一回 宮地貫一

新しい編集局のスタッフの皆さん、ご苦労様です。知人から娘さんの写真を一枚預かっております。一人はピアノ(音楽教室の先生)、一人は歯医者さんです。ご連絡を待っております。

(TEL五〇二ノ二七七〇)
放送大学東京連絡所 宮地)

●三十二回 竹中恵美子

二十五歳の長男(昭和三九年三月十八日生) 明るいのがと見え、オッチョコチョイが玉にきず、三井ホームに入社して四年目になりますが、いまだ意中の方に恵まれません。ぜひ土佐の方からと願っておりますが、私は良き姑になるつもりです(？)

●四十回 小島三郎

「テクナート」とはテクニカル・アートを一つにした造語。各分野のニーズに応えマイクコンピュータ・チップを用いて最適化された電子機器を開発・提供する会社の名前です。創業十五年を来年に控え、テクナートは大きく飛躍しようとしています。ハード/ソフト、文系/理系、もちろん男女を問わず、テクナ

消 息

●二十四回 山中和正

二十四回生の京浜地区在住者は、池上、清岡、楠、黒岩、重松、西川、浜田、松村、真鍋、山中、横田と思っておりますが、この他にご存知の方はお知らせ下さい。

●二十五回 山本高敏

二十五回生三浦敏秀君が去る十月十九日勤務先の会社の慰安旅行中に急逝されました。心からご冥福をお祈りすると共に、皆様にご報告します。二十五回生はクラスメート総勢七九名。戦災で亡くなった一名を含め九名が世を去ったことになり、その比率はかなり高いと言われています。育ち盛りの小学・中学生時代が戦中戦後の食糧難時期だったことが原因でしょうか？

近 況

●三十一回 山本起久子

(同窓会名簿最多登場紹介) 父一回、長女(私)三十一回、妹三十五回、第二十七回、三



十九回、以上一大家族五名。その上、父に同窓会長式典挨拶短縮依頼すること再々。父校内散策中、廊下に立たされし弟発見苦笑したとの話聞く。

●三十九回 大和田洋子

趣味と実益 第一回編集会議の帰り、少々お酒も入り、よい気分で見学先と新宿東口までそぞろ歩き、フット時計を見ると、十一時の特急まで二分あまり、私は挨拶もそこそこ脱兎の如く走りだし、余裕をもって乗車できました。日頃のジョギングの効果を改めて認識し、一人ニンマリしている今日此頃です。

●六十回 松下恭子

ご無沙汰しています。私は九月十一日に高知の近森病院で盲腸の手術を受けました。生まれ初めて初めての手術でしたが、あつという間に元気になる、ほつとしています。編集

同 期 会

●十八回 武市榎夫

八月三十一日、丸の内「POLESTAR」にて在京十八回生の同窓会。急な催しだった、在京六名中四名、夫人同伴にて集合(小生の家内のみ病気のため欠席)。戦前の豪華客船「鎌倉丸」の一等船客食堂をそのまま移した雰囲気最高の部屋を、その昔きつそうたる海軍士官だった佐藤精一幹事の顔で借り切り、酒も料理も美味この上無し、土佐中時代の腕白の日々を回顧しつつ、大いに飲を尽くした。席上甲子園応援談義で「走

ただけでは野球にならん」説の方ががんばってくださいね。

●四十九回 吉井雄二

土佐高卒業して十五年。ある日、何となく「同学社」という名前に記憶があり、ふと「こちら土佐高の……」が、今にいたっています。

●向井隆豊展(十一月四日、二十二日) 調布駅前調布画廊にて開催された。(四四回生。「不安、空漠とした不在感がほとばしり、眼にみえぬ詩のようなものを向井は一貫して追求している」(評論家・針生一郎氏)

編集局よりお願い

●この度、編集局では『広告掲載者登録制度』を設けました。今までは前号掲載者を中心に個別依頼する方法でしたが、特定の人に継続的な負担をかけると共に同窓生諸兄姉の広範な活躍ぶりを知る機会を狭くする面もありました。そこで新年より、百名を目標に広告掲載して戴ける方を登録する事にしました。一掲載当り一万円。御協力お願い致します。

お問合わせ、お申し込みは事務局、又は広告担当の鶴和41回(03-470-1055)まで。

●編集局では皆様の御寄稿をお待ちしています。近況報告会員の動向(フォーカス歓迎) 慶弔、サークル募集 求人求職、花嫁花婿募集(本人、家族、知人) etc. 何でも結構です。1コマ百字前後にまとめてお知らせ下さい。

支部だより

●支部活動報告(後期)

8・12 高知の本部総会に宮地支部長出席。

8・26 東海支部総会

9・30 学年幹事会

10・14 筆山編集会議

10・28 名簿作成委員会

11・11 名簿小委員会

11・18 編集会議、名簿委員会

●新年総会のお知らせ

平成二年一月二十七日(土)午後三時より。去年と同じ、東條会館で開催します。講師は三七回の野田正彰氏。

●年会費納入状況(平成元年度分) 11月30日現在、延べ七二八名、一四五万六千円

平成二年度の年会費納入にご協力をお願いします。

支部名簿を作成しますのでお金がかかります。会費納入の方には無料で名簿を送ります。ぜひとも宜しくお願い致します。

年会費は二〇〇〇円。(学生は不要) 郵便口座は東京7142816「土佐中・高同窓会関東支部事務局」まで。

●卒業三十周年記念誌「再会」発行

三十四回生

名簿にとどまらず、近況報告や写真までといった豪華版の記念誌で、卒業以来三〇年をへて、全国にいる同級生の思い出の広場の役割を果たしている。表紙は田島征彦氏(世話人代表は岡内紀夫氏)

筆山会

●第17回筆山会ゴルフ

十月二十八日千葉県上総Gにて24名が参加。午前中快晴午後大雨の中、沢村良節氏が優勝。紅一点の浅井和子氏が初の入賞を果たし、筆山会にも「マドンナ旋風」の兆しが見えてきた。

①沢村	良節	33回	85	16	69
②小松	建紀	33回	82	10	72
③浅井	和子	35回	113	40	73
BG小松	建紀		42	40	82
《その他の参加者》					
北岡5	吉沢16	宮地21			
野沢25	浅井30	杉村30			
大倉30	西内30	大町30			
田所30	三宮30	松本31			
吉野31	宮川33	堀内33			
千原33	池添33	竹田33			
高島33	公文35	小松41			

●二十二回 高野 和夫

「おまんら泣きなや、おまんらの泣き顔をテレビで見ちよったらあていの顔にも雨が降って来たぜよ。0対2?何がぜよ、あー点数がかよ、たったの二点がなんぜよ。おまんらの野球部は試合では負けたけど、久しぶりに見せてくれたグラウンドでのマナー、応援団の品の良さ。我が母校土佐高野球部は日本一やがな。胸の中に大きな優勝旗をしまつて胸をはって堂々と田舎に帰りや。」

昭和十六年、中学(旧制)

の入学式、最初に目に入ったのは校門をくぐってすぐの石に刻んだ文章だった。筆山の麓、鏡川の辺……後は余り難しくして読めず。

入学して間もなく実力試験があり、「歴史とは何ぞや」という問題が出た時、あれ、俺は高校に入学したのかなと錯覚を起こした。また国語の授業も驚いた。「巻三から授業をするから巻一、二は自宅勉強して来るように。君達は秀才だから当然出来るはずだ。」

秀才達はそれでも良い成績を取っていた。だが小生の様にならざるやうと間違つて入学出来

た生徒にはただ戸惑うばかりであつた。

その頃の土佐中では運動部と名のつくものは無かつた。生課の剣道以外は軟式テニスと校舎の奥に小さな弓道場があり、自由に練習が出来た。楽しかるべき学生生活もその後の第二次世界大戦により学徒動員、そして敗戦と歴史の流れの中で様々な体験をし、はや還暦を迎えました。六十を過ぎた今でも、土佐中を卒業した誇りと共に、これから努力して人生の優勝者になろうと頑張っています。

●三十二回 竹中恵美子



カット 佐々木泰子(33)

母校の出場でハッスルして観戦いたしました。(但しTVで)私はむずかしい野球の理論やテクニクは判りませんが、今の高校野球のレベルで、さわやかな試合ぶり、高校生らしい全力疾走、高校野球の原点を見るようなマナーetcでは百戦錬磨の優勝最多校の敵ではないことは、素人目にも判ります。けれども

昭和六一年夏、出身校(旅順高女)の同窓会が高知で開かれることになったので、私は喜び勇んで参加を決めた。三十七年ぶりに第二の故郷を見ることができた。

昭和二十六年に高知を離れても、近沢夫人(澄さんの母上)私の歯をなおして下さった歯医者さんの奥さん、二九回の鍵山さん、三十回の野口雅子さん方とは、ずっと文通を続けていたので、連絡を取っているうちに在高三十回生のお耳にも入り、皆さんが集まって下さるといふ。恒石、梅原両氏のおかげで旧一D組が二十数名も。入学記念の集合写真と当時の闇魔帳を取り出して、名前を照らし合わせて準備をした。土佐から松浦校長、小松教頭、町田事務長さん方が出て下さり、思いもかけない晴れがましい会となった。



昭和25年 先生方

●三十八回 戸田 博之

プロ野球じゃない、社会人野球でもない。六太学野球とは違う。高校野球。甲子園つて、一体何だろう。勝つても負けても自然に涙があふれるあの気持ち何だろう。

いくつになってもどこか心の隅に残してある青春の輝きの場所からわき上がる感激。土佐高だけが本当の高校野球とは言わない。でも土佐高だけはいつまでも本場の高校野球を日本人に見せ続けて欲しい。

土佐の龍馬とおとめさんへ

土佐高の思い出 ③

吉田 富士子(元教諭)

人もいた。夢の様な一夜だった。

帰京後、在京の三十回生からもお招きを受け、この頃は更に関東支部新年会にも。多くの先輩先生や立派な卒業生の中で小さくなりながらも、高知弁に取り巻かれてうっとりしている。井の頭にあつた土佐塾から程近い三鷹の私の家へ顔を見せていた二八回二



昭和25年、桂浜 1Dクラス

九回の方達にも再会できた。終戦後、郷里でもなかった高知に引き揚げて、温かい気候風土、そして温かい人情に包まれ、その上、天下の土佐高と縁ができて沢山の龍馬さん達と知り合い、自家製の山芋やお豆などをわけて下さるおとめさんという恵まれよう。

私はこの仕合わせに感謝する事しかできない。せめて心から野球部の御奮闘を祈らせて頂きます。

吉田先生には長きにわたり連載して頂き、心より御礼申し上げます。末永くご健康と御多幸をお祈り申し上げます。(編集局)

野球部の甲子園出場に 関東支部で

六〇〇万超す 寄付が集まりました。

学年幹事の皆様のご尽力で関東支部では一〇二九名の方々から六六六万七千円の寄付をいただき、本部に送金できました。ご協力有難うございました。トップは三三回生の七三名、四一万八千円でした。また、一般では土佐酒蔵様より一〇万円を戴きました。

土佐敗退 春の選抜絶望に

秋の高校野球県予選の二回戦で、土佐高は高知高に11対4で8回コールド負けを喫し、春の甲子園への夢は完全に断たれた。

(二〇月二七日・市営球場)

高知 01402013
土佐 00001300
4 11



全役員を再任

懇親会で食中毒

学年幹事会

平成元年の関東支部学年幹事会は九月三〇日、八重洲のルビーホールで開催され、四十二名が出席した。

会議では活動報告・会計報告・監査報告を承認、役員改選で宮地支部長以下役員全員が再任された。また、来年一月二十七日(土)に東條会館で新年総会を開催することを決めた。

懇親会の支部名簿は新年総会までに作成する予定で、準備にかかった。

四年間にわたって筆山の編集長をつとめた小松勢津子さん(三五回)の後任に戸田博之氏(三八回)が選ばれた。

◇役員次の通り。

支部長 宮地貫一 二二回
幹事長 浅井伴泰 三〇回
副幹事長 溝淵真清 三二回
同 窪田秀忠 三八回
事務局長 岩村康生 四一回
会計監査 曾和純一 一六回
同 山本高敬 二五回
◇筆山編集長 戸田博之 三八回

会議に引き続きルビーホールで開催された懇親会で食中毒事件が発生し、二五名が高熱、下痢、腹痛などの症状を

みんなで飲めばこわくない

一木会誕生

去る九月三十日の同窓会学年幹事会で提案があった、毎月第一木曜日の銀座「土佐酒蔵」での飲み会(一応名前を「一木会」としておきます)の第一回目が去る十一月二日

宮地先輩以下総勢十四名の出席を得て盛大に開催されました。音頭取りの宮川先輩は、なにしろ十人もの人数で予約をしてあったため集まるかどうか心配であったとのこと。案ずるよりは生むが易し。酒好きの土佐人のこと集まらない筈がない。宮川先輩が先日の食中毒事件を通じて体で稼いだ貴重な資金の中から特大(?)の皿鉢料理を二皿も皆に振る舞ってくれたのは特筆事項。感謝。感謝。

飲む程に酔う程に談論風発

訴え、欠勤、早退、遅刻などの被害にあった。

原因は卵に入っていたサルモネラ菌とみられ、自家製のマヨネーズをつくる際に増殖したらしい。

同ホールでは幹事会の前二日間にはわたって食中毒をだし九九名の被害者が出ていた。



二次会、三次会と、とことん盛り上がった第一回一木会でした。次回以降求む女性。
〔出席者〕 宮地 21 山本 25
吉野 31 宮川 33 竹内 37
橋田 37 弘瀬 37 松本 37
窪田 38 戸田 38 中島 38
岩村 41 鶴和 41 二宮 49

集う同胞意気高し

●十六回 曾和純一

九月二十一日「ねぼけ」銀座店で。保健文化賞受賞のため上京の尾本文之助君(安芸市小児科医)同期入学)をゲストに、支部から十八人が参加しました。

〔出席者〕 池田、島内、曾和、田村、恒石、浜田、伴水野、由井、吉沢

●三十八回 戸田博之

十月七日、後楽園のすぐそばサテライトホテルにて三十八回生の同窓会開催。神戸から成岡夫妻出席。総勢二十七名。

●三十三回 佐々木泰子

「いやー、あんた○○さん」はずんだ声は三二年前と変わらぬ三三回生の女性軍。

十月三十一日。朝は晴れちよつたに、昼前から生憎の雨。めったに来ん赤坂の『皆美』に集まった十二名。久しぶりに会い、少女に戻ったマドンナ達(オバタリアンとは違います。念の為)は、おいしい料理とおしゃべりに時を過ごし「又、来年も」と再会を約束しました。

かつて「入試まで後三六五日……」とか当時の大嶋校長

十月三十一日、六時半より有楽町東天紅で。中華料理を囲み男女二九名が忘年会をかねて参加しました。

四三年前、中学入学後すぐに転校された方や、卒業以来三六年初めての方、また既に故人となられた方の御家族の



土佐っぱは男もエエが、女もエエ。(33回)

思い出の先生方 ⑥



初代校長

三根 円次郎先生

長男 三根 徳一

(ディック・ミネ)

父

大学を卒業して、最初父の言うとおりに郵政省に入ったが、仕事のつまらなさに閉口して、学生時代の仲間とジャズバンドを作り、ステージに立つてドラムをたたいたりしていた。

「近頃、小遣いをせびらんが、おまえ役所というのはそんなにもうかるのか」

これが、父の最初の質問でありました。

「このごろ変な歌を歌っているディック・ミネというのはおまえか」

レコードが売れまくって、とうとう父の耳にまで入って

しまったのです。怒られるのを覚悟して「はい」というと

「世の中、どんな商売もある。やる以上は恥ずかしいようにやれ、トップになれ」でありました。

父は息子に対しては自由放任でありましたが、自分の学校の生徒に対しては、実に細やかに、一人一人の個性を見抜いていた様子は当時の在校生である方たちがよくご存知かと思えます。

「嘘つきはいらん」

……怒られた話

山形の小学生の頃、小石を



章小日旭等四勲
叙勲ディ
(昭和54年)

板塀に出来ている小さな節穴に投げ入れて遊んでいたら、たまたま的をはずして自分のおでこに当たり、血を流して家に帰って母に正直に話さずに、「道を歩いていたら、どこからか石が飛んできて怪我をした」と嘘をついた。母はそのとおり父に伝えたのだが、三つ上の姉が、違う違うあれは自分で投げた石がはねかえったのよと言ったために、父に「嘘つきはこのうちにはいらん」と怒られ、山形の雪が一メートルも積もった中にほり出されたのです。その時はただただ寒さにふるえ、ばあやに助けを求めたのです。

父に許しを請いにいった私は父から、これから学校の先生のところへ行って、あやま

って来たら家に帰って来ても良いと言われ、ばあやと二人提灯を持って先生の御宅まで、一里の道を雪の中、黙々と歩いたのでありました。

後になり、自分の失敗を人のせいにしてはいけないという、父の教えであったかと懐かしく思い出すのです。

貫いた教育方針

私は教育者ではないので、校長の立場的な事については解らぬに等しいが、軍人・文部省・学校・生徒と毎日が忙しく苦痛の連続であったろうと思われまふ。その中で自分の教育方針を頑として通した父は文部省であれ、軍人であれ、岩のごとく動じなかった。父は学校で「おはよう」と

父の教育は今の時代にも立派に通用すると私は父を誇りに思います。今は学校に組合があるなんて、不思議な時代になったものです。

亡くなりましたのは昭和十三年三月十八日、六十二歳でありました。

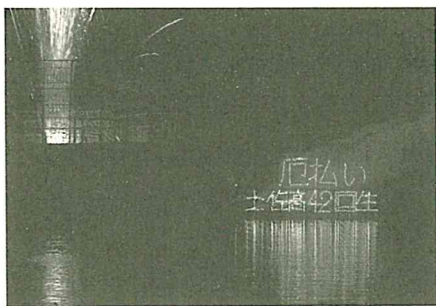
昭和五十四年十一月三日文化の日には私は、勲四等旭日小綬章という勲章を昭和天皇から拝受いたしました折、なによりも父に報告したかった。親孝行したいときには親は無し。

昔の人は、確かに穿った事を言いますね。

平成元年

ディック・ミネ

常、人の常。
時間が無い、金が無いのがこの世代。「女房を質に入れ



「これじゃあいかんぜよ」と市役所勤務の暇人、掛水兄いが音頭取りとなつて「なんか、ばあつとはでなことをせんと、厄もぬけきれんぜよ」「ほんなら、ばあつと花火でも打ち上げてみんかえ」「丁度同窓会の予定もあるきに花火を見て、『臨水』でちよこつと」。

厄年をものともせずに新築開院した深田医院の披露宴の席上、話がまとまりとんとんとん……と、いかぬが世の常、人の常。

「後ば野となれ、山となれ」肩組み合つて柳町。

ちよこつとのことばのあやに

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あさがえり

あ

ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社

代表取締役社長 秦 郷次郎
(31回生)

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル
電話 (478) 3694番

 **リクルート人材センター**

社長 溝渕真清 (32回生)
内田靖子 (57回生)

労働大臣許可13コサツモ0001号
東京都港区西新橋1-10-2
リクルート西新橋ビル 〒105
電話 03(508)9141(代表)
新宿/横浜/神田
名古屋/梅田
難波/神戸

 **日章造園株式会社**

代表取締役社長 千原 望 (33回生)
代表取締役相談役 澤村 良節 (33回生)

東京都目黒区下目黒3丁目8番5号 〒153
Tel.03-716-3221 / Fax.03-716-3226

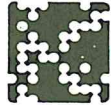
弁護士 浅井 和子
(35回生)

〒102
東京都千代田区麴町4-7-2
直江・浅井・法律事務所 TEL(221)8831
FAX(222)0181

エレクトロニクス革命の最前線で、
夢を現実に変えてゆく。
カシオは第三の波の頂点に立つ。

CASIO

取締役楽器推進部長 羽方将之 (38回生)
兼 研究部長

 株式会社 **くもん出版**

代表取締役社長
中城正堯

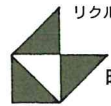
東京都千代田区三崎町3-6-9 〒101
日通千代田ビル
TEL(03)239-1427(直) (03)234-4001(代)

Management & Systems Consultants

 株式会社 **システムズプランニング**

代表取締役 小倉 璋
(32回生)

本社 東京都新宿区本郷4番地4 祥平館別館
〒160 電話 03(351)0351
大阪 大阪市淀川区西中島3丁目18番21号 南館ビル3F
事務所 〒532 電話 06(306)5636

 リクルートホテルグループ

晴海グランドホテル 03(533)7111
川崎グランドホテル 044(244)2111
芝グランドプラザ 03(434)5761

顧問 溝渕真清 (32回生)

積水ハウス株式会社

東京営業部長 片岡 勇征 (34回生)

東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー 5階
☎(03)346-6800

メガネ、コンタクト、補聴器のことなら
何でもご相談下さい。
世界一のメガネ店と松下幸之助氏激賞！

全国50店舗 **富士メガネ** 大手町店

取締役店長 窪田 秀忠
(38回生)

千代田区大手町1-6-1 大手町ビル
TEL 03-214-4751 日曜日(休み)

同学社版・新修ドイツ語辞典刊行

株式会社 **同学社**

取締役社長 近藤 久寿治
(6回生)

東京都文京区水道1-10-7
電話(03)816-7011(〒112)

放送大学学園

理事長 宮地 貫一 (21回生)

本部 千葉市若葉2丁目11番地
〒260 電話(0472)76-5111(代表)
連絡所 東京都港区虎ノ門1丁目14-1
〒105 郵政互助会琴平ビル4階
電話(03)502-2770(代表)

神奈川歯科大学教授

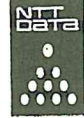
常務理事 門脇 稔 (25回生)

自宅/神奈川県逗子市山の根2-6-3 ☎(0468)72-1213

壺坂電機株式会社

代表取締役 壺坂 博文
艶子 (28回生)

〒192 東京都八王子市石川町1683-1
☎(0426)46-1127(代) FAX 46-1834

 **NTT data**

東海支社長 小笠原 博幸 (29回生)

〒460 名古屋市中区錦2-17-21
電話 (052) 204-4500

情報から活力をうみだすバリュー・クリエイター

NTTデータ通信株式会社

三菱電機株式会社

相談役
進藤 貞和
(3回生)

〒100 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

浄水場・下水処理諸施設の運転・維持管理

月島メンテナンス株式会社

取締役社長 吉澤 信一
(16回生)

〒104 東京都中央区月島4-8-14
TEL 03-533-6271

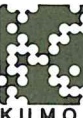
圧縮空気除湿装置
吸着精製装置

AUTO-PUREX

 **丸谷化工機株式会社**

代表取締役社長 山本 高敬 (25回生)

〒100 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル

 **公文教育研究会**

取締役
教育主幹
岩谷 清水
(27回生)

東京都千代田区五番町3番1号 〒102
五番町グランドビル
電話03-234-4651(代)
大阪市淀川区西中島5丁目6番6号 〒532
公文教育会館
電話06-304-7611(代)

 **IMS**
UNIVERSAL
NETWORK SERVICE
CO.,LTD.

代表取締役社長
泉谷 良彦

株式会社 **ユニバーサル・ネットワーク・サービス**

東京都中央区築地4丁目7番3号 TEL. 03(5565)3883
〒104 築地ファーストビル4F FAX. 03(5565)3886